

学校教育目標	心豊かである子 ・進んで学習する子 ・思いやりのある子 ・健康で明るい子
目指す学校像	「自ら考え、進んで行動する「強い子」の育成」 「凡事徹底 挑戦・感謝チーム田島」
重点目標	1 教育DXを活用し、学習者が主体的に学ぶ授業の実現 2 子どものWell-being実現のための心のサポート体制の充実 3 子どものWell-beingのための家庭・地域と連携した学校づくりの推進 4 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 5 「新たな教師の学びの姿」を具現化する教員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を下回っているが、「国語や算数の勉強が好き」と肯定的な回答をする児童の割合は、全国・市平均より高い。 ○市調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできる」と肯定的評価をした高学年の割合は91.3%と高い。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「話すこと・聞くこと」の内容及び算数の「変化と関係」の領域についての設問を不得意とする児童が多い。 ○全国及び市の学習状況調査において、既習事項を活用することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育DXによる学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善 ・子どもが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる授業スタイルの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①リーディングDX協力校として、教育DXによる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について各教員の実践事例の共有を行う。 ②ICTスキルアップに関する研修を実施する。 ③学力向上カウンセリング訪問を実施し、各教員が本校の課題点を把握し、授業改善の視点をもつ。 ④複数教員で個々の児童のよさを見取り、各教員の専門性を生かせるよう全学級で担任以外の授業（一部教科担任制：田島スタイル）を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教員の実践事例の共有を行ったか。 ②学校評価「授業でタブレットをよく使っているか」（児）について肯定的評価の維持ができたか。（R6:95%→R7:95%） ③学力向上カウンセリング訪問を実施し、各教員が授業改善の視点をもてたか。 ④全学級で担任以外の授業（一部教科担任制：田島スタイル）を実施したか。 			
2	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、どちらも全国・県平均を上回った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○不登校傾向の児童が多い。専門機関等への連携に加え、SoLa る一むの持続的な運用について、引き続き検討の必要がある。 ○心と生活のアンケート結果等によると、自己肯定感の低い児童が多い。個別の課題を抱える児童を把握し、相談・支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解を基盤とした組織的な校内支援体制の充実 ・安心・安全に生活するための主体的な児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTを活用した月1回の学校委員会（生徒指導・教育相談・特別支援教育、SoLa る一む支援会議）により、継続的な状況把握や必要に応じた組織的な支援を行う。 ②スクールロイヤーによる教員研修及びいじめ防止のための特別講義の実施をする。 ③SoLa る一むの支援方針について、昨年度の施行から見えてきた課題点を踏まえた改訂を行う。 ④情報端末による保健室の来室記録データにより、ケガの発生件数、場所等の把握を行い、健康・安全指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報端末を活用した学校委員会の開催及びアンケート結果や行動観察に応じた迅速・組織的な対応をしたか。 ②学校評価「いじめ防止」（保）の肯定的評価が向上したか。（R6:77.5%→R7:80%） ③SoLa る一むの支援方針について実態に応じた改訂をしたか。 ④学校評価「健康教育」（児）の肯定的評価を維持したか。（R6:90%→R7:90%） 			
3	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会において目指す児童の姿について熟議を重ね、自ら考え進んで行動する児童の育成が図られている。 ○学校ホームページやSNSを活用し、教育活動の様子についての情報発信を積極的に行ってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の熟議を踏まえた協働活動の推進を図る必要がある。 ○地域人材（各種ボランティア）の高齢化に伴う減少傾向がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を基盤とした家庭・地域との連携 ・目指す児童の姿の地域全体への共有 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の計画的な実施と、熟議内容の工夫を行う。 ②学校運営委員会に代表児童が参加する機会を設ける。 ③H P「児童の様子」の投稿などにより、積極的に教育活動の広報を行う。 ④学校運営協議委員への研究授業の公開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会における熟議内容をHPに公開をしたか。（年3回、年2回以上） ②学校運営委員会に代表児童が参加する機会を設けたか。（年1回以上） ③H P「児童の様子」の投稿を実施したか。（月3回以上） ④学校運営協議委員への研究授業公開を実施したか。（年2回以上） 			
4	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○開校51年目となり、施設の老朽化が進んでいる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○近年、事務職員が単年度で変わっていたため、見直しをもった修繕計画や予算執行が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適で安全な教育環境の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に怪我につながる危険箇所について管理職・事務職員と合同安全点検を実施する。 ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付け、長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行を行う。 ③換気及び蜂などの侵入を防ぐ教室窓の網戸を複数年で計画的に設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①管理職・事務職員と合同安全点検の実施をしたか。（4月） ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付けたか。長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行をしたか。 ③教室窓の網戸の設置を計画的に進められたか。 			
5	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度文科省リーディングDX協力校かつ市教委委嘱「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実の研究指定の2年次である。 ○情報機器については、児童、教職員ともに積極的に活用している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究委嘱校として、児童に学びの主導権を委ねる実践を一層積み重ねる必要がある。 ○やりがいや満足感を感じている教職員は94%、負担感や多忙感を感じている教職員は88%と市平均程度であるが、時間外在校時間に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現する校内研修の実施 ・一人ひとりが働きやすく、働きがいのある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①研修主任を核とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての組織的な学校研修による実践を重ねる。 ②当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をする。 ③業務改善やメンタルヘルスの確認を含めた教職員との面談を実施する。 ④タイムマネジメントを意識するよう会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導者を招聘した年3回（市教研研修大会を含む）の研究授業と全教職員による公開授業を実施したか。 ②推薦研修を含め、当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をしたか。（5月末、1月） ③ストレスチェックにおける健康リスク値の維持（R6:男78女89→R7:80~90） ④各種会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確して会議を進行したか。 			

学校運営協議会からの意見・要望・評価等